

ミャンマー連邦  
ハンセン病対策・基礎保健サービス改善プロジェクト  
運営指導調査報告書

平成 14 年 4 月

国際協力事業団  
医療協力部

## 序 文

ハンセン病対策・基礎保健サービス改善プロジェクトは、ミャンマー連邦政府の要請を基に2000年4月から5年間の協力期間で、ハンセン病を中心とした感染症対策の強化と、住民に直接保健サービスを提供するスタッフの訓練を中心とした協力が開始されました。

このたび、協力開始より2年目を迎えるにあたり、これまでのプロジェクト全体の進捗状況の確認と問題点の把握を行うことによって、本プロジェクトにかかわる専門家チームとカウンターパートに必要な助言を提供し、今後の活動への提言を導き出すため、2001年11月18日から11月27日の日程で、田中 喜代史 国内委員会委員長を団長とし、運営指導調査団を派遣しました。

本報告書は、上記調査団の調査結果を取りまとめたものです。ここに本調査にご協力を賜りました関係各位に深甚なる謝意を表します。

平成14年4月

国際協力事業団

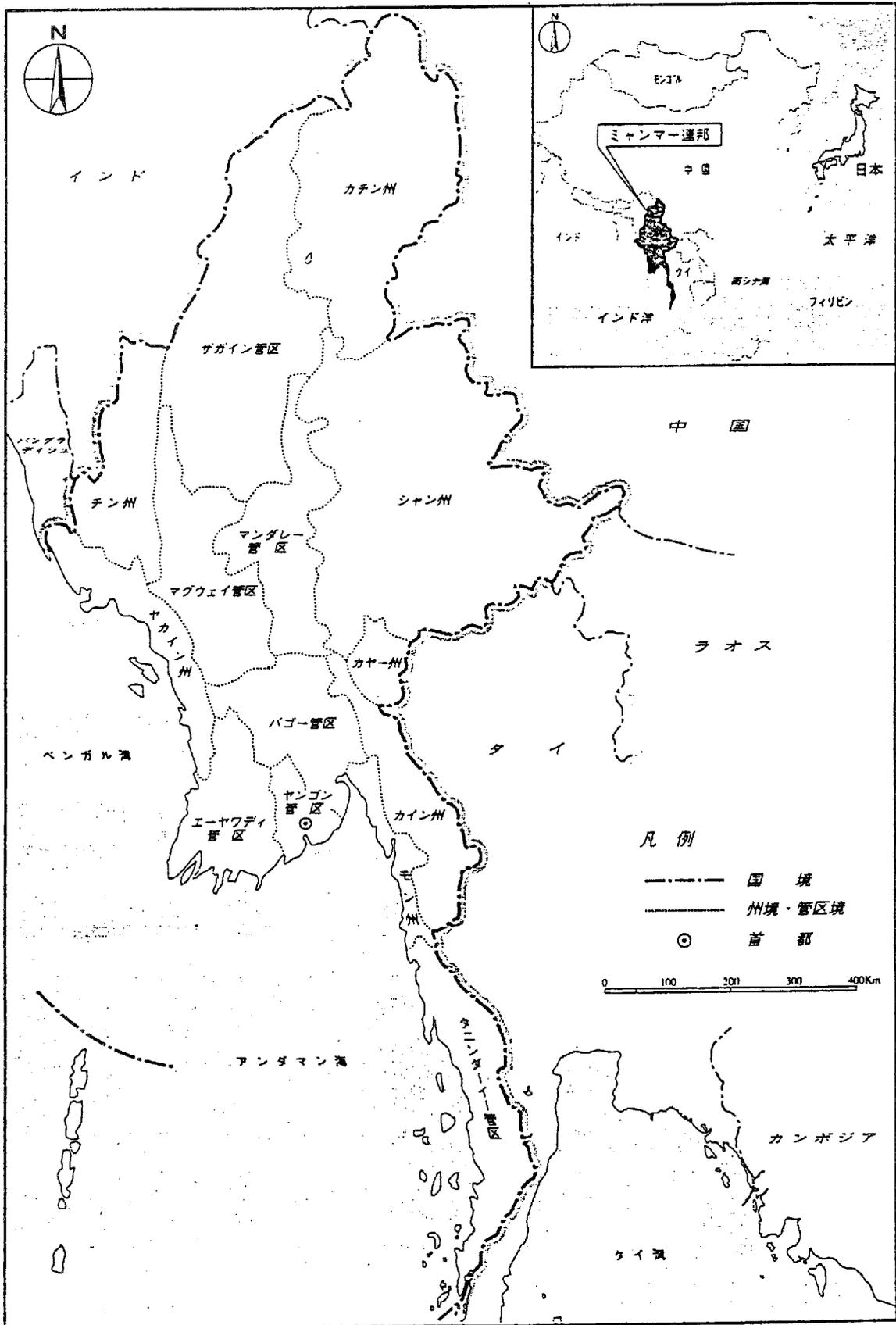
理事 隅田 栄亮

# 目 次

序 文  
目 次  
地 図  
写 真

第1章 運営指導調査の概要 .....	1
1 - 1 運営指導調査団派遣の経緯と目的 .....	1
1 - 2 調査団の構成 .....	2
1 - 3 調査日程 .....	3
1 - 4 主要面談者 .....	4
1 - 5 主要調査 / 面談内容 .....	5
第2章 総 括 .....	14
第3章 ハンセン病対策 .....	15
第4章 感染症対策、運営 / 管理体制 .....	16
第5章 看 護 .....	20
付属資料	
1 . ミニッツ .....	25
2 . カウンターパート組織図 .....	41
3 . ハンセン病対策活動・計画報告(カウンターパート) .....	42
4 . イエナダ・ハンセン病病院概要 .....	70
5 . 合同調整委員会 / プロジェクト活動報告(カウンターパート) .....	79
6 . 合同調整委員会 / プロジェクト活動報告(専門家チーム) .....	81
7 . 橋本 千代子 長期専門家(看護、2000.6.12 ~ 2001.11.30)報告 .....	85

地図：ミャンマー連邦





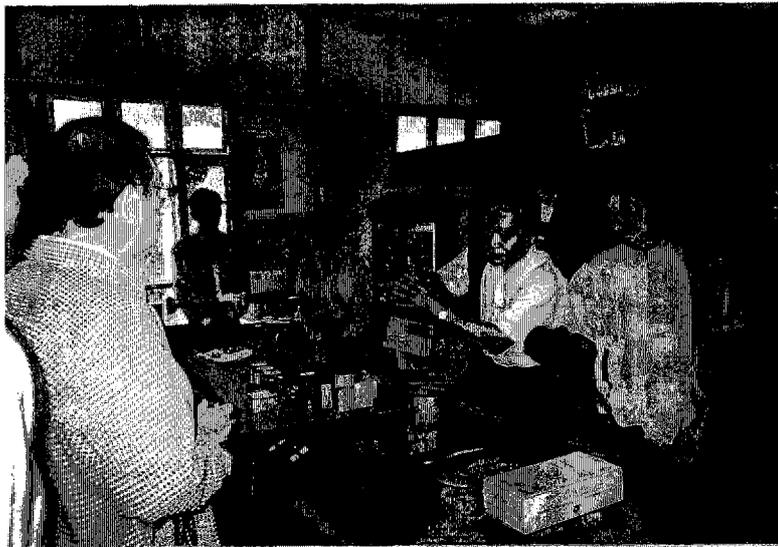
サガイン管区での Leprosy  
Elimination Campaign  
(LEC) 視察 1  
寺院での啓蒙活動



サガイン管区での Leprosy  
Elimination Campaign  
(LEC) 視察 2  
映写場での啓蒙・診断活動



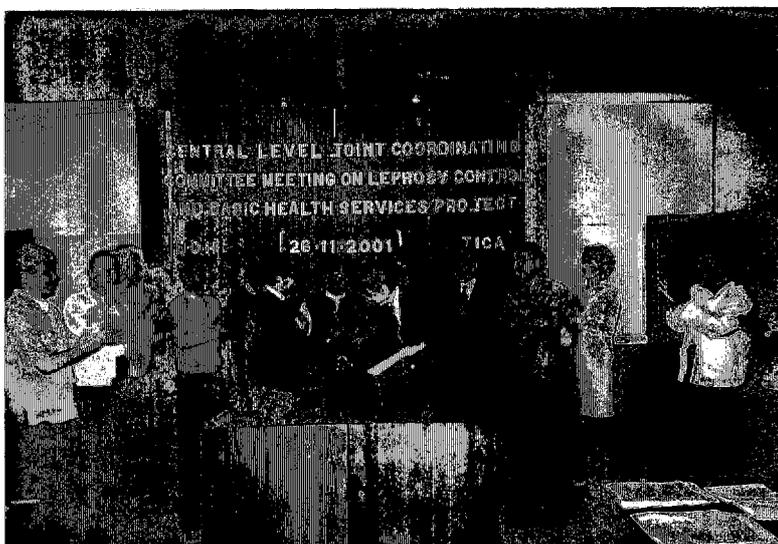
イエナダ・ハンセン病病院  
研修センター  
(本プロジェクトで建設。手  
前が講義室、後方が宿泊  
棟。各種訓練プログラムを  
実施)



イエナダ・ハンセン病病院  
義肢装具室  
(サンダルの開発)



イエナダ・ハンセン病病院  
手術室  
(本プロジェクトで改修。  
自然光を取り入れた設計)



ミニッツ署名

# 第1章 運営指導調査の概要

## 1 - 1 運営指導調査団派遣の経緯と目的

### (1) 経緯

ミャンマー連邦(以下、「ミャンマー」と記す)では、感染症が死因及び疾患の上位を占め、保健省は第三次国家計画において各感染症のプライオリティーを高め、優先的に取り組んでいる。そのなかで、ハンセン病については、患者数が世界で五指に入る多発国となっている。

同国では、1950年初頭から世界保健機関(WHO)の指導を受けてハンセン病対策に取り組み、ハンセン病対策のための専門スタッフが養成され組織化されていたが、1977年から基礎保健サービス(Basic Health Service : BHS)のなかに統合された。従来ハンセン病だけをターゲットにして活動してきた専門スタッフと全般の一次医療サービスを行うスタッフとが共存するなかで、ハンセン病の多剤療法が試行的に導入され、1991年には全国に広げられていった。その成果としてある程度の有病率の低下がみられたものの、ハンセン病の早期発見が適切になされている状況ではなく、またハンセン病患者のケア・リハビリテーションも不十分である。1998年10月には感染症基礎調査団が派遣され、ハンセン病対策を中心とした技術協力の必要性が指摘された。

このような背景の下、ミャンマー政府はハンセン病を中心とした感染症対策の強化と、住民に直接保健サービスを提供するスタッフの訓練を中心としたBHSの強化を目的に、プロジェクト方式技術協力を要請してきた。

#### 1) 事前調査団派遣

上記要請を受け、ミャンマー側の要請内容と実施体制及び協力実施計画を調査・協議するため、1999年7月に事前調査団が派遣された。

#### 2) 短期調査員派遣

その後事前調査の結果を踏まえ、1999年9月から11月にかけて、ハンセン病対策の現状調査(研修、機材、教材、通信状況等)、プロジェクトの5か年計画策定、プロジェクト・サイトの選定、専門家オフィスの選定、専門家住環境調査等、プロジェクトの詳細計画を策定することを目的に、各分野の専門家が短期調査員として派遣された。

#### 3) 実施協議調査団派遣

これら一連の調査結果を踏まえ、本プロジェクトの協力内容、協力方法、協力対象地域の最終決定と、協力実施経過の策定を行い、討議議事録(R/D)及び暫定実施計画書(TSI)の署名・交換を行うことを目的として、2001年1月に実施協議調査団が派遣され、同年4月より次の内容の協力を行うこととなった。

## 上位目標

- 1.ハンセン病の根絶及びリハビリテーションの充実が図られる
- 2.ハンセン病コントロールシステムの強化が図られる

## プロジェクト目標

プロジェクト・サイト(マグウェイ、サガイン、マンダレー管区)において、ハンセン病コントロールプログラム(ハンセン病の新患発見、治療、障害予防(POD)・障害進行の予防(POWD)・リハビリテーション)が、他の疾病(結核や麻疹など)コントロールプログラムにおける技術向上とともに、効果的に実施される。

## 活動項目

- 1.ハンセン病の新患発見(New Case Finding)
- 2.ハンセン病の治療(Treatment)
- 3.ハンセン病の予防とリハビリテーション(Prevention and Rehabilitation)
- 4.その他の疾病(Other Diseases)
- 5.プログラム運営
- 6.その他必要な活動

## (2)目的

現在、プロジェクトの開始から1年半が経過したため、本調査団は、プロジェクトの進捗状況及び成果を確認すると同時に、プロジェクトの方向性について助言を行うことにより、今後の円滑なプロジェクト運営を図ることを目的として派遣された。

### 1 - 2 調査団の構成

	担当	氏名	所属
団長	総括	田中 喜代史	前国立国際医療センター国際医療協力局 局長 国内委員会 委員長 みずほファイナンシャルグループ 第一勧業銀行顧問
団員	ハンセン病対策	江川 勝士	国立駿河療養所 所長
団員	感染症対策	千葉 靖男	国立国際医療センター国際医療協力局派遣協力第二課 課長
団員	看護	實吉 佐知子	国立国際医療センター国際医療協力局派遣協力第二課 派遣協力専門官
団員	協力計画	青木 恒憲	国際協力事業団医療協力部医療協力第一課 職員

### 1 - 3 調査日程

2001年11月18日から同年11月27日まで

日順	月日	曜日	移動及び業務
1	11/18	日	移動 10:30 成田 15:30 バンコク (TG641) 移動 18:00 バンコク 18:45 ヤンゴン (TG305)
2	11/19	月	9:00 JICAミャンマー事務所表敬 10:15 在ミャンマー日本大使館表敬 11:00 保健局表敬 14:00 保健局との協議 (活動報告、プレゼンテーション、ディスカッション)
3	11/20	火	移動 6:30 ヤンゴン 8:40 マンダレー (HK005) 9:30 マンダレー管区ルーティン・アクティビティー活動説明、視察、ディスカッション 14:30 マンダレー管区アマラプラTownship Hospital 専門家・調査団内協議
4	11/21	水	8:20 サガイン管区スペシャル・アクティビティー (LEC)* 活動説明、視察、ディスカッション 10:45 サガイン管区Divisional Office訪問 サガイン管区ミンムTownship Allakapa Rural Health Center訪問 13:30 寺院、集会所、役場等訪問 サガイン管区ミンムTownship Hospital訪問
5	11/22	木	9:20 イエナダ・ハンセン病病院活動説明、視察、ディスカッション 13:45 プロジェクトカウンターパートオフィス訪問 14:20 プロジェクト日本人専門家オフィス訪問 15:00 マンダレー管区Divisional Office訪問 マンダレー管区特別皮膚科外来 (Special Skin Clinic) 訪問
6	11/23	金	移動 8:35 マンダレー 10:05 ヤンゴン (HK036) 13:00 専門家・調査団内協議
7	11/24	土	9:15 保健局とのミニッツ案協議
8	11/25	日	ミニッツ準備、資料作成
9	11/26	月	9:00 合同調整委員会 11:30 ミニッツ署名・交換 13:00 保健省訪問 移動 19:45 ヤンゴン 21:25 バンコク (TG306)
10	11/27	火	移動 11:20 バンコク 19:00 成田 (TG640)

\* LEC: Leprosy Elimination Campaign

## 1 - 4 主要面談者

### (1) ミャンマー側関係者

#### 1) ヤンゴン

Dr. Soe Aung	Deputy Director General, Public Health / Disease Control, Department of Health
Dr. Ye Myint	Director, Disease Control, Department of Health
Dr. Htay Lwin	Director, Public Health, Department of Health
Dr. Kyaw Nyunt Sein	Deputy Director, Leprosy, Department of Health
Dr. Kyaw Myint	Assistant Director, Leprosy Control, Department of Health
Dr. Htin Lin	Medical Officer, Leprosy Control, Department of Health
Dr. Kyaw Kyaw	Leprosy Specialist, Central Special Skin Clinic, Department of Health
Dr. Aye Tun	Deputy Director, Tuberculosis, Department of Health
Dr. Phyu Noe	Assistant Director, Tuberculosis, Department of Health
Dr. Pe Thet Tun	Director, International Division, Ministry of Health

#### 2) マンダレー

Dr. Nyunt Hlaing	Medical Superintendent (Director), Yenanthar Leprosy Hospital
Dr. Myat Thida	Medical Officer, Yenanthar Leprosy Hospital
Dr. Than Tun Oo	Director, Mandalay Divisional Health Department
Dr. Than Lwin	Deputy Director, Mandalay Divisional Health Department
Dr. Than Tun Myint	Medical Officer, Mandalay Divisional Health Department
Dr. Than Than Myint	Health Officer, Mandalay Divisional Health Department
Dr. Kyaw Sein	Regional Leprosy Officer, Mandalay Divisional Health Department

#### 3) サガイン

Dr. Kyaw Shein	Director, Sagaing Divisional Health Department
Dr. Myint Myint Sein	Deputy Director, Sagaing Divisional Health Department
Dr. Khin Saw Mu	Township Health Officer, Sagaing Divisional Health Department

#### 4) コンサルタント

Dr. Maung Maung Gyi	WHO National Consultant (Former Medical Superintendent)
Dr. Kyaw Lwin	WHO National Consultant

## (2) 日本側関係者

## 1) 在ミャンマー日本国大使館

橋本 雅道 二等書記官

## 2) JICA ミャンマー事務所

青木 利通 所長

木滝 真之 企画調査員

## 3) プロジェクト専門家

長尾 榮治 長期専門家 ハンセン病対策

橋本 千代子 長期専門家 看護

馬場 洋子 長期専門家 看護(後任)

谷口 世志子 長期専門家 業務調整

## 1 - 5 主要調査 / 面談内容

11月19日

JICA ミャンマー事務所表敬

- ・ 団長より、調査団の目的、今回の調査団ではプロジェクト・デザイン・マトリックス(PDM)で実施済みであるものについてはPDMについての整理や改訂等の検討が必要であろうこと、及びプロジェクトの進捗状況を確認する旨、説明を行った。
- ・ 木滝企画調査員より、6月にイエナダ・ハンセン病病院(以下、「イエナダ病院」と記す)トレーニングセンター完成を迎えプロジェクトが本格的に始動したこと、ミャンマー政府が2003年末までにハンセン病登録者数の数を1/1万以下にするために奮闘努力しており、これへの対応や協力が必要であろうこと、地方と中央の違いや様々なレベルの組織活動の現状把握を運営指導に生かしてほしい旨、説明があった。
- ・ 青木所長より、国情やイエナダ病院トレーニングセンターの建設の遅れにより活動が遅延している面があること、専門家の配置(チーフアドバイザー及び長短期専門家:マンダレー、調整員:ヤンゴン)や専門家のマネージメントについて検討の余地がある旨、説明があった。これに対し団長より、対処方針会議でも同様の議論がなされた旨、述べた。
- ・ 木滝企画調査員より、ミャンマーは下の者が上の者にものを言えないタイプのトップダウンの国であり、プロジェクトにかかわる手続きは煩雑かつ時間を要するため、早めの対処と決定が重要である旨、説明があった。
- ・ 青木所長より、プロジェクトの活動地域は、ミャンマー全体、保健省全体の意向があつて、

そのなかで JICA のプロジェクトが位置づけられるものであり、3 管区はモデルケースづくりではなく、限られた時間やインプット(人員等)での活動の効果を認識する必要がある旨、説明があった。

- ・長尾専門家より、調査にあたっては、ハンセン病に関するミャンマーと日本の現状及びその対応状況は異なること、ミャンマー側が日本に協力を期待しているのは、患者の発見・治療後に取り組みざるを得ないリハビリテーションや高齢化への対応(日本が得意とする分野)の協力であること、に留意されたいとの説明があった。

#### 在ミャンマー日本大使館表敬

- ・団長より、調査目的、日程の説明に加え、PDM の改訂は必要に応じて帰国後検討する旨、説明した。
- ・橋本書記官より、本プロジェクトのマンダレー方面での活動は注目を集めており、ミャンマーのなかでの ODA の中心的活動及び Good Practice としての役割と成果を期待したい、また日本財団による薬品供与もあり、ミャンマーではハンセン病対策支援が活発であるとの説明があった。

#### 保健局表敬

- ・Dr. Kyaw Nyunt Sein ( Deputy Director, Leprosy, Department of Health ) を訪問し、調査団より訪問目的、日程を説明した。

#### 保健局との協議(活動報告、プレゼンテーション、ディスカッション)

- ・ミャンマー側より、ハンセン病対策の現状と活動及びプロジェクトの PDM 活動の進捗状況報告があり、調査団側から詳細確認を行った。
- ・ミャンマー側より、現在は国際公約(2003 年末までにハンセン病登録者数の数を 1/1 万以下にすると WHO に宣言)達成に力を注いでいること、一方でハンセン病制圧後の活動(Post-Elimination Activities)として想定されるリハビリテーション対策には、現状では取り組む余力がない旨、説明があった。
- ・調査団より、日本人専門家のコミュニケーションの状況と疋田チーフアドバイザーの配置場所についてミャンマー側に質問したところ、疋田チーフアドバイザーがマンダレーからヤンゴンに移動することでプロジェクト関係者のコミュニケーション機会が増え、プロジェクト運営が円滑になる旨、回答があった。

## 長尾長期専門家との打合せ

活動進捗状況等重要事項について以下のとおり説明があった。

- ・プロジェクト活動は全般的に遅延しておらず、対処方針会議向けに提出したプロジェクトの報告書の「実施していない」「未定」の記述は、ミャンマー側が既に実施しているものが大半ととらえるのが正しい。
- ・New Case Finding については、ミャンマー側の誤診率と技術レベルは低くない。またミャンマー側が、的確に活動を展開しているので、現状としては JICA があえてかかわるべき活動の余地、必要性は少ない。
- ・短期調査、実施協議、プロジェクト開始時は、ハンセン病対策のプロジェクト活動の Key としてミッドワイフ (Midwife) を取り上げ、診断力は低く、活動現場での大きな義務・役割を担っていると想定していた。しかしながらプロジェクト活動を進め活動現場に入っていくに従い、実際は診断力は高く、一方で現場での活動機会は少ないまたは不在であることが分かり、この想定が必ずしも正しくないことが判明した。実際は Junior Leprosy Worker と Vertical Staff がハンセン病対策の中心的役割を果たしている。機材供与先の Key としてもミッドワイフが想定されてきたため、現実に合わせて再検討する必要がある。
- ・プロジェクト活動のモニタリングはミャンマー側の忙しさもあり、模索中である。

11月20日

マンダレー管区アマラプラ Township Hospital

- ・ルーティン・アクティビティーの一例視察のため訪問し、ミャンマー側より活動概要や実績について説明があった。
- ・千葉団員よりデータの取扱状況や課題について照会したところ、カバーするデータの地理的範囲と Incomplete Reporting (New Case 登録者は薬の指定服用期間 (多菌型 (Multibacillary : MB) 及び少菌型 (Paucibacillary : PB) によって異なる) を終わると登録から外れるが、患者が的確に服用していないケース、処方者の手違い・診断ミスにより服用期間が的確でないケース、患者が行方不明になったケースなどが発生しており、データの正確性を高める方策が必要である) については改善の余地がある旨、説明があった。
- ・ミャンマー側より、New Case Finding のみならず Treatment や Rehabilitation を、Township レベルで Junior Leprosy Worker と Vertical Staff が中心となって実施できれば理想的であるが、現実としては New Case Finding 活動を展開するのが手一杯であるとの説明があった (例 : 人手不足により Junior Leprosy Worker が 1 人で 50 数名担当しているとの現状報告あり)。ルーティン活動以外については、人的 / 時間的コストを最小限に抑え、かつ住民の自発的な参加を期待できる LEC (Mass Survey + Health Education + 人々の意識向

上への取り組みを生かしている)を活動の中心に据え、引き続き展開していきたいとの意向を示していた。

- ・病棟、検査室、ワクチン保存室、手術室等の利用状況等を視察した。

#### 専門家・調査団内協議

- ・専門家チームより活動報告があり、PDM に沿った活動がおおむね展開されていることを確認した。
- ・また専門家チームより、プロジェクト運営/管理の検討・改善課題として、プロジェクトにかかわる必要手続き(専門家・研修員・機材等)の迅速化、プロジェクト・専門家チーム内のコミュニケーションの円滑化、個々の専門家の業務・役割の明確化、専門家の配置場所の再検討、プロジェクトオフィスの移動、機材供与先の検討(プロジェクト開始時に重要視されていたミッドウイフよりも Vertical Staff の役割が大きい、Rural Health Center レベルへの供与効果が期待されるなど)があげられ、改善の方向で同意した。

#### 11月21日

##### サガイン管区 Divisional Office 訪問

- ・スペシャル・アクティビティーの一例視察のため訪問した。ミャンマー側よりルーティン/スペシャル・アクティビティー両方の活動概要と実績についての説明があり、特にスペシャル・アクティビティーとしての LEC については住民の協力と意識向上が重要であるとのコメントがあった。

##### サガイン管区ミンム Township の Rural Health Center、寺院、集会所、役場、Township Hospital 訪問

- ・ミンム Township Allakapa Rural Health Center にて、ミャンマー側より、実施中の LEC の活動状況・実績について説明があった。
- ・典型的な LEC のスケジュール・段階は次のとおりである。

2 日間を 1 単位で実施する。活動の中心は(Junior) Leprosy Worker & Inspector であり、ミッドウイフが補佐的な役割を果たす。1 日目に対象とする村に出かけ、夕方に村の代表・中心者を対象にビデオを用いてハンセン病対策を啓蒙し、同時に住民に翌日(2 日目)の集会に参加をするよう依頼する。2 日目の午前中は住民集会を開き、1 時間ほどかけてハンセン病について説明し、昼近くまでハンセン病の症状が出ていると思われると自発的に名乗り出た住民に対して診断をする。午後には新たな村に移動する。

寺院、集会所、役場等を訪問することで、実際の活動の各段階の理解を深めた。

11月22日

イエナダ病院活動説明、視察、ディスカッション

- ・ ミャンマー側より、イエナダ病院の概要説明があった。
- ・ 病棟、検査室、義肢装具室などの各施設を見学し、プロジェクトの活動状況を確認した。またプロジェクトで新設した訓練センター（教室2、専門家室1、宿泊部屋、食堂等）と改修した手術室を視察し、施設・機材整備状況が適切であることを確認した。

プロジェクトカウンターパートオフィス、プロジェクト日本人専門家オフィス訪問

- ・ 専門家チームより、プロジェクトオフィスに関し、カウンターパートオフィスと日本人専門家オフィスは本来同一であるべきであり、プロジェクト開始時に日本・ミャンマー双方で合意した予定地に日本人専門家オフィスが入ったものの、諸事情によりカウンターパートオフィスが移転してこないため情報交換やコミュニケーションに支障を来しており、状況改善に努めるようこれまでミャンマー側に依頼してきたとの報告を受けた。
- ・ 両オフィスの見学を通じ、両オフィス間が車で約10分程度離れていること、電話が通じにくいこと、終業時刻が異なること、また日本人専門家オフィスはEメールが使用できずにいること（宿泊先のホテルで使用）を確認した。これに対し、ミャンマー側に状況改善を申し入れたところ、カウンターパートオフィスにスペースを設けるので、日本人専門家オフィスを移転してほしい、またその手続きを進めたいとの回答を得た（その後の協議で移転の方向を日本・ミャンマー双方で確認した）。

マンダレー管区 Divisional Office、マンダレー管区特別皮膚科外来訪問

11月23日

専門家・調査団内協議

11月24日

保健局とのミニッツ案協議

\* JICA ミャンマー事務所の木滝企画調査員の報告を以下、部分引用。

議題：ハンセン病対策・基礎保健サービス改善プロジェクトのこれまでの活動実績及び今後の活動計画 について

出席者：

ミャンマー側

Dr. Kyaw Nyunt Sein, Deputy Director, Leprosy, Dept. of Health

Dr. Phyu Noe, Assistant Director, Tuberculosis, Dept. of Health

Dr. Kyaw Kyaw, Leprosy Specialist, Central Special Skin Clinic, Dept. of Health

Dr. Kyaw Lwin, WHO National Consultant (Leprosy, Lower Myanmar)

Dr. Maung Maung Gyi, WHO National Consultant (Leprosy, Upper Myanmar)

Dr. Kyaw Myint, Assistant Director, Leprosy Control, Dept. of Health

日本側

(運営指導調査団)

田中 喜代史 江川 勝士 千葉 靖男 實吉 佐知子 青木 恒憲

(ハンセン病対策・基礎保健サービス改善プロジェクト)

長尾 榮治 専門家 橋本 千代子 専門家 馬場 洋子 専門家

谷口 世志子 調整員 U Ne Win 事務所スタッフ

Dr. Saw Lwin, JICA プロジェクト・コンサルタント

(JICA ミャンマー事務所)

木滝 真之 企画調査員

協議内容：

(1) 2000年4月から2001年11月までの活動実績について

プロジェクトの活動実績をR/D、PDM、及びTSIに照らし合わせて評価したところ、プロジェクト活動は一般に順調であることを双方で確認した。プロジェクトの活動の要点と投入実績はミニッツ(案)のとおりである。

(2) 2001年12月から2003年3月までの活動計画について

1) 同プロジェクトの活動計画をミニッツ(案)に記す内容とすることにつき、双方で合意した。

2) New Case Findingについてミャンマー側は、「現在ミャンマー側はquickでsimpleな新規ハンセン病患者のモニタリング手法を実施している。もしもJICA側がNew Case Findingのモニタリングについて何か支援したいのなら、今後ミャンマー側はSentinel Surveyの実施を計画しているので、これを支援してもらうことが考えられる」と提案した。これに対しJICA側は、この場はひとまず「プロジェクトはより適切なモニタリングへの支援について検討する」とし、今後プロジェクトが詳細をミャンマー側と打ち合わせていくこととした。

Dr. Kyaw Nyunt Seinから確認したところによると、Sentinel Surveyとは、例えば年に1度、ある時期にある地域を対象として新規患者の発見状況を調査し、New Case Finding活動がうまく進んでいるのかどうかを知るという手法である。

- 3) ミャンマー側から、「カウンターパート研修の人数を増やしてほしい」旨、要望があった。これに対し JICA 側は、「この要望を認識しておく」と返答した。
- 4) ミャンマー側から、「アカデミックコース(長期及び短期)への受入れを要望する」旨、言及があった。これに対し「カウンターパート研修は1年未満である。このほか JICA には長期研修員という制度があり、これに応募する場合、プロジェクトを通して JICA ミャンマー事務所に要望をあげてほしい」と返答した。
- 5) ミャンマー側から、「日本の高度システムを視察する目的で、ミャンマーの Senior Medical Officer をプロジェクトの活動として招聘できるか?」との質問があった。これに対し JICA 側は、「当プロジェクトには招聘に係るスキームはないため不可能。ただしカウンターパート研修の枠を使って来日してもらうことは可能。Senior Officer をカウンターパートとすることはプロジェクトとして特に問題ない」と返答した。
- 6) ミャンマー側から、「研修実施を目的とする JICA 専門家を派遣する場合、ハンセン病対策課以外の関連組織へカウンターパート配置をアレンジしてもらわねばならず、それには時間が必要なので、少なくとも専門家が派遣される2か月前までにはスケジュールを知らせてほしい」、「その場合、プロジェクトには、専門家の受入組織との間で活動内容やカウンターパートのアレンジにつき事前にネゴシエーションしてほしい。過去の例では『学校保健』がこれに当たる」旨、要望があった。これに対し JICA 側は、「善処する」旨、返答した。
- 7) JICA 側は、「拡大予防接種計画(EPI)の専門家は手配の時間が足りないため、2001年度は派遣しない予定である。2002年度はBHS研修にあわせて派遣を検討したい」旨、伝えた。ミャンマー側はこれを了承し、保健局EPI課に伝えるとした。
- 8) 今後のプロジェクトが調達する機材について、ミャンマー側から「essentialな機材に絞りたい」旨、希望があった。これに対して JICA 側は、「今後ミャンマー側と詳細を検討する」と返答した。

### (3) その他

#### 1) ミャンマー側の要望

- ・ Dr. Kyaw Lwin から、「特にマンダレー管区に対して、疫学的研究を行うよう考慮してほしい。疫学的研究はイエナダ病院の活動の一つにすべきだ」との提案があった。長尾専門家はリサーチについて、ミャンマー側はどのようにそれを実現しようと考えているのか具体的なアイデアを聞いたところ、Dr. Kyaw Nyunt Sein から、長期研修、機材供与、長期専門家派遣を想定している旨、回答があった。これに対し JICA 側は、「リサーチはプロジェクトのPDMにないためプロジェクトとしては支援できない。別の案件と

して要望を心にとどめておく」と伝えた。

- ・ Dr. Kyaw Kyaw から「Central Special Skin Clinic( CSSC )に serological diagnostic equipment を整備してほしい」旨要望があった。これに対し長尾専門家は、「これはプロジェクトの臨床検査研修の一環として当初から検討されてはいたが、これまで優先度が低かったため実施しなかった。もうプロジェクトの機材予算も残り少ないため実施しない」としたため、ミャンマー側に対し「本件は優先度が低く予算は限られているので実施しない」と伝えた。

## 2) Dr. Kyaw Nyunt Sein のコメント

- ・ 当プロジェクトの活動は、将来(ハンセン病撲滅後)の活動の基礎となるものである。したがって、私たちはこのプロジェクトに幅広く活動してもらうのではなく、なるべく一部に統合( consolidate )して活動してもらいたい。
- ・ 我々は人材のみならず CSSC やイエナダ病院の機材についてもキャパシティーを積み上げたい。
- ・ 多くのハンセン病患者は村落に住んでいるため、社会参画( social integration )により村人のハンセン病に対するコンセプトや知識を改善したい。その意味で、プロジェクトが予定している関心高揚( raising awareness )は歓迎する。プロジェクトの活動はマスメディアの活用を通じて、このプロジェクト対象地域のみならず他の地域へも波及されるものである。

## 3) JICA 側の要望

- ・ 適切なカウンターパート研修員を人選するよう、ミャンマー側に要望した。これに対しミャンマー側からは、「各研修にどのような人をカウンターパート研修員として選べよいか、その背景をあらかじめ伝えてほしい」旨、要望があった。
- ・ 現在、マンダレーのプロジェクトオフィスは結核病院ゾーン 2 内に置かれているが、マンダレー管区 Leprosy Officer やヤンゴン当局とのコミュニケーションをよくするため、今後マンダレー管区 Leprosy Officer の事務所内に移転したいと提案したところ、ミャンマー側から「対処する」旨、回答が得られた。
- ・ 疋田チーフアドバイザーと Dr. Kyaw Nyunt Sein とのコミュニケーションをよくするため、今後疋田チーフアドバイザーにはヤンゴンに常駐していただく方が望ましいとの意見があった。しかし、現在本人が不在であり決められないため、疋田チーフアドバイザーへは JICA 側から相談することとし、ミャンマーに帰任されてからミャンマー側へ相談する旨、提案した。ミャンマー側はこれを了解した。

11月25日

ミニッツ案作成・資料整理

11月26日

合同調整委員会

- ・ ミャンマー側には既に前日から、日本側の意向についておおむね説明を行い、賛同を得られていたこともあり、同委員会は非常にスムーズな議事進行となり、内容も有意義なものとなった。
- ・ Dr.Saw Aunng 及び青木所長より、双方の協力に関する謝辞と期待、また調査団への感謝が述べられた。長尾専門家より日本側としての活動報告と今後の計画についての報告、また Dr. Kyaw Nyunt Sein よりミャンマー側代表としての報告がなされた。
- ・ 無事ミニッツ署名・交換を迎えた。

保健省訪問

本プロジェクトの日本・ミャンマー間の国際窓口を訪問し、ミャンマー側から以下の説明と要望を受け、以下のとおり回答した。

- ・(説明)カウンターパート研修員の選考については、時間がかかるものの、プロジェクトに関連する人材を優先順位をつけて手続きしている。
- ・(要望)1～2人を長期間派遣するより、予算的側面から複数名を短期間派遣させてほしい。
- ・(回答)人数枠に基づいて受け入れているため、多くても3人程度になると思われる。
- ・(要望)研修員にマスター等の Degree をとらせるプログラムを新設してほしい。
- ・(回答)プログラムの開設は本プロジェクトのスキームでは対応困難であり、またカウンターパート研修の期間は1年未満との制約がある。長期研修員制度、文部科学省の JICA 留学生枠制度等を有効活用されたい(なお、2001年度、本プロジェクトカウンターパート2名が鹿児島大学と琉球大学に文部科学省の JICA 留学生枠制度に応募中)。
- ・(要望)2003年末までの目標達成を設定した国際公約(ハンセン病登録者数の数を1/1万以下にすると WHO に宣言)の実現につき、国際社会の一部から達成は危うい・達成を疑問視しているとの印象をもたれているようであるが、保健省は日夜取り組みを続け、着実な成果をあげており、そのような印象は全く誤解であると考えている。日本はミャンマーに理解を示し積極的に協力してくれているので、様々な機会を通じ、是非そのような印象は誤解であり、着実な成果をあげていることを国際社会に訴えてほしい。
- ・(回答)了解した。

## 第2章 総括

今回の運営指導調査団の目的は、本プロジェクトが開始されてから1年半が経過したため、プロジェクトの進捗状況と成果の確認及び今後のプロジェクトの進め方について必要な助言を行うことであった。このため2001年11月18日から27日にかけてミャンマーを訪問し、現在派遣されている日本側の専門家及びミャンマー側のプロジェクトのカウンターパートとの協議及びプロジェクト対象地域・施設の視察を行った。

プロジェクトの進捗状況についてであるが、実施協議の際にミャンマー側と日本側との間で確認したPDMに基づいての活動は、例えばNew Case Findingの活動に関してのように、ミャンマー政府が2003年のハンセン病撲滅に向けハンセン病対策を促進するため、PDMのなかで予定していた活動が全国的にミャンマー側で前倒しに実施されたものもあり、実施する必要がなくなったものもあった。その他の活動はプロジェクト地区のJICA事務所やイエナダ病院内の研修棟の整備が遅れたにもかかわらず、長期・短期の専門家の努力によって多くの研修なども実施された。しかし、すべての活動に共通することではあるが、ミャンマーの政治事情とミャンマー全体の2003年ハンセン病撲滅活動が優先されるため、PDMどおりに活動を進めていくのが大変困難な状態にあることも理解できた。

今後のプロジェクト活動の進め方については、2003年に向けてのミャンマーのハンセン病撲滅対策との整合性のとれた活動を行わなければならない。また、モニタリングのように撲滅宣言後にこそ必要な活動や、今までミャンマーにおいて取り組みが遅れ要望も強いリハビリテーションの問題についてミャンマー側との十分な協議を通じ、可能な限り派遣されるであろう長期・短期専門家の容量を考慮しながら、PDMに沿った活動を実施することが望まれる。

なお、今回の調査団の事前協議の際に議論したPDMの変更の必要性については、その必要はないと思われた。

## 第3章 ハンセン病対策

### (1) 進捗状況

1999年からミャンマー独自のハンセン病撲滅戦略として全国ハンセン病撲滅キャンペーン(NLEC)が開始されており、2003年までに目的を達成することとしている。

2000年の新発見患者は1万717人である。有病率は、全国では人口1万人当たり2.2人となっている。地区/州により0.4人から3.5人と違いがみられる。有病率は減少傾向にあるとはいえ、新患のなかでMBの占める割合が多く、また弱年者にも発生がみられる。診断の精度に問題があり、場所によって30%から70%の誤診率がみられる。また診断されて治療が開始されるまで、平均5年の遅れがみられている。

大略以上のような状況のなかで、プロジェクトはR/D、PDM、TSIに従って順調に進捗している。詳細は付属資料1.ミニッツを参照されたい。

### (2) 課題と対応策

(1)で述べたように、ミャンマーのハンセン病の状況は楽観できるものではない。治療の遅れに影響していると考えられるハンセン病に対する偏見をなくし、治療が無料で受けられること、またどのような方法で治療が行われるかなど、きめ細かい情報の伝達により国民に正確な知識を普及することが必要である。患者発見に直接かかわるとともに診断精度にも大きな影響をもつBHSスタッフの教育の拡充が必要である。正確な診断に必要な欠くべからざる菌検査の普及のために検査技師の技術向上、顕微鏡等の機器の充当が急がれる。

### (3) 資機材の利用状況

詳細は付属資料1.ミニッツを参照されたい。

## 第4章 感染症対策、運営 / 管理体制

### (1) 感染症対策

#### 1) 進捗状況

「基礎保健サービス改善」を目的とする非ハンセン病分野での協力は、現在、研修が主体であり、その概要はおおよそ表4-1のとおりである。

表4-1 ハンセン病以外の疾患を対象とするセミナーの開催及び支援

日程(2001年)	場 所	研修カテゴリー	対象分野	参加者数	その他
5月14～16日	ヤンゴン	TOT	TB, EPI	11人	兼ハンセン病研修
7月6～7日	ヤンゴン	TOT	TB	13人	
7月18日～ 8月10日	対象48 Township	BHSスタッフ	TB, EPI	3,091人	
8月9～16日	イエナダ	顕微鏡診断	TB	9人	短期専門家が実施
8月15～28日	イエナダ	顕微鏡診断	マラリア	5人	短期専門家が実施

結核(TB)及びEPIについてはミャンマー側が主体となり、ヤンゴンでのTraining of Trainers(TOT)に引き続いて、48 TownshipのBHSスタッフを対象にトレーニングコースが開催された(ハンセン病セルフケアコースと合同)。結核は直接監視下短期化学療法(DOTS)を中心に、また、EPIについては既存のテキストを用いたマネージメントが中心のリフレッシュメントコースであった。しかし、時間的な制限もあり、十分なものとはいえなかったようである。また、可能であればその分野の日本人専門家も講義に加わることも必要だったであろうが、今回はそこまでいかなかった。TBとマラリアの顕微鏡検査では短期専門家が指導して好評であったという。

#### 2) 課題と今後の対応

2001年度、十分に対応できなかったのはEPIへの協力である。ミャンマーでもEPIは大切な小児保健プログラムとして位置づけられており、UNICEFの指導の下、全国的なネットワークが完成している。我が国もワクチン、コールドチェーン機材、ADシリンジなどの供与を行っている。実際の予防接種活動を行うのはBHSを受け持つミッドワイフたちである。EPI疾患は著明に減少しており、ポリオ根絶計画においても、1998年以降は野生ポリオが検出されていないことなどからも、その活動の質は一定以上のレベルにあると推定される。最近のEPIの活動は新生児破傷風及び麻疹のコントロールなどにも力を入れている。また、マンダレー及びサガイン管区のTownshipにおいて事情聴取を行った限りでは、ワクチン接種サー

ビスは適切で、注射の安全性についても知識があった。また、ポリオ根絶計画に関係して急性弛緩性麻痺 (AFP) サーベイランスも適切に行われ、12月に始まるポリオワクチン全国一斉投与 (NIDs) の準備も始まっていた。

しかし、ミャンマーでは、このようにアクセスの容易な地域の EPI が良好であるのに比べ、遠隔地域の活動は著しく劣るのが特徴である。例えば、そのような地域では乏しい電力事情によりコールドチェーンシステムが十分に確立されておらず、定期接種がほとんどなされていないかもしれない。また、注射の安全性の知識にも乏しく、これが守られていない可能性もある。そのような意味では、まだ技術的指導を必要とする分野も多いと推定されるが、実際のところ、その根本的な改善をめざすとすれば、このような技術的な指導だけでは極めて不十分である。いずれにせよ、地域の問題の本質を十分に把握することが必要である。そのうえで、可能な協力は何かを打ち出すべきであろう。

BHS 強化への協力の一環として、2002 年度は EPI 専門家の派遣を予定している。これは主に BHS スタッフのトレーニングコースへの参加、講義を予定しているが、さらに、現在別スキームでなされている我が国のミャンマー EPI への協力 (ワクチン、コールドチェーン供与) の成果の分析や、それをより効果的にするための意見の具申なども含めるべきであろう。しかし、ミャンマーではフィールドの調査には様々な制約を伴うため、十分な期間と関係セクターの協力が不可欠である。

### 3) 資機材の利用状況

顕微鏡はイエナダ病院や特別皮膚科外来、一部 Township にも配布された。ハンセン病以外の目的では結核、マラリアの診断及びそのトレーニングに用いられているが、視察した限りではその利用は適切であった。

## (2) 運営 / 管理体制

### 1) 進捗状況と課題

貧弱な通信事情と不便なオフィス環境、あるいは移動上の制約など、すべての面で不自由を強いられている状況下での活動開始であり、プロジェクト運営に完全を望むことは難しいかもしれない。

個々の業務についての状況は以下のとおりである。

#### プロジェクトの運営

##### ・短期専門家派遣

プロジェクト活動の進捗に合わせるかたちで派遣を決めているため、派遣の決定が遅れ気味である。また、ミャンマー側の受入許可に3週間が必要だという問題もあって、かなり早期から手続きを開始しなければいけないことも、スムーズな専門家派遣の阻害要

因となっている。2001年度の情報・教育・コミュニケーション(IEC)専門家の派遣は、ミャンマー側と時期的な調整がつかず延期となった。

・研修員

2000年度は予定どおり3名のハンセン病のカウンターパートを受け入れた。2001年度は1名のハンセン病のカウンターパートと、EPIと結核分野の研修員を受け入れたが、前者はヤンゴンのEPIスタッフで、プロジェクトとは直接関係がない。結核分野の研修員も同様で、しかも日本での研修がHIV集団コースになるなどの問題が生じた。

・機材供与

一部の配付先変更を検討している機材(小外科セット)を除き、教育機材、顕微鏡などの検査室機材の供与と利用は適切になされていると考える。

専門家間の意思疎通

プロジェクトオフィスがヤンゴン(調整員)とマンダレー(チーフアドバイザー及び専門家2名)の2か所に分かれており、さらに、教育や診療などのプロジェクト活動の場がイェナダ病院(マンダレー市中心より1時間)であることなどが、専門家に余分な労力を強いており、プロジェクトチーム内の意思疎通を弱める一つの要因となっている。

ミャンマー側との関係構築

プロジェクト、あるいは専門家とミャンマー側との関係は極めて良好である。今後はこれをお互いに個人レベルにとどめず、様々な業務を推進するうえでの組織へと発展させることが望ましい(例えば教育マテリアルの作成チームなど)。

その他の業務

協力活動(実績)の整理、2002年度プロジェクト計画の作成、新規事業の立案(例えば中堅技術者養成対策の利用など)、調査ミッションへの対応などには、まだ向上の余地がある。

## 2)対応策

これらの問題を改善するため、今回のミッションとしては以下のように業務態勢を調整変更するのが適当ではないかと考える。すなわち、

現在のマンダレーオフィス(Eメール不能)をマンダレー管区保健局のハンセン病対策部署に移す。これにより、中央のカウンターパートとの意思疎通が促進されるうえ、必要な情報にもより早く接することができる。また、Eメールが可能になるため、業務上の通信連絡が容易になる。

チーフアドバイザーは中央(ヤンゴン)のオフィスに常駐して、ミャンマー側との意見交換を随時行えるようにする一方、プロジェクト運営に必要な決済に遅延が生じないように努める。

ミャンマー側カウンターパートとの協議にあたっては、チーフアドバイザーだけでなく、

可能な限り調整員や他の専門家も加わることが望ましい。

チーム内の意思疎通についてチーフアドバイザー以下、すべての専門家が留意すべきである。プロジェクト内合議事項は文書として残し、欠席者にも徹底させる必要がある。

チーム全体でよく協議し、懸案事項(中堅技術者スキーム)の実施にも積極的に取り組んでほしい。宣伝メディアの制作などには、ミャンマー側の様々なセクターも巻き込んだ事業として展開できれば理想的である。

## 第5章 看護

### (1) 活動進捗状況

#### 1) BHS スタッフへのトレーニング

Integrated トレーニング：ハンセン病、結核、EPI 合同の研修を実施。

POD/POWD 対策のセルフケア：ハンセン病患者に対するケア方法の指導についてのガイドブックを作成し、Teaching method 研修、TOT 研修、BHS スタッフへの研修を実施。

課題：セルフケア研修に関しては、教材作成から研修内容の検討、実施、及びアンケートを行っているが、これらの評価に基づいて、基礎保健を担っている BHS スタッフへのトレーニングの内容と方法については、今後検討が必要であると考えます。

#### 2) セルフケアについて基礎データの収集

フィールドの患者現状調査実施。

BHS スタッフトレーニングのアンケート実施。

課題：フィールドに出た調査や研修前アンケートを実施し、現状把握をする活動が徐々にできるようになってきた。今後もこれらの活動を継続し、モニタリング及び研修計画へ活用していくことが重要である。

#### 3) ハンセン病患者及び家族への社会的支援

ソーイング指導の準備：経済的自立への支援を計画している。

課題：一つの村で活動を準備中であるが、NGO との連携のなかでどの範囲までかわるかは今後も十分な話し合いをもつ必要がある。

#### 4) イエナダ病院における活動

イエナダ病院スタッフ：入院患者に対して行う処置の清潔操作、包帯交換に関する指導を実施。患者用教材導入の準備を行い、パンフレットとビデオを作成中。

課題：手術室の改築も終了し、今後ハンセン病患者に対する再建術が本格的に実施されていくなかで様々な指導が必要になってくるだろう。イエナダ病院には、研修センターが完成しており、顕微鏡診断の研修などが実施されている。今後はハンセン病に関する指導的役割が期待されるだろう。

### (2) 指導内容

現在行われている BHS スタッフへのトレーニング、イエナダ研修センターに関する活動は、今後も継続して行っていくことを確認した。これまで行われた研修について、研修内容の妥当性、効果等の評価及び評価方法について相手側とともに検討し、次回研修計画策定に活用していくことが重要である。

カウンターパートとの関係は良好で、保健省から許可が下りると、その後の活動は比較的スムーズに行われているようである。

イエナダ病院スタッフのトレーニングにあたっては、現在まで短期専門家とともにかかわっている。プロジェクトでは新たな活動も開始されるため、病院研修での短期専門家との仕事分担を整理する必要がある。また、ガイドブックやパンフレット、ビデオ等の作成にあたってはIEC 専門家などを活用し、充実したものを作っていくのがよいと思われる。

### (3) 提 言

ミャンマーのシステムのなかでプロジェクトで何か実施するにあたっては、すべてヤンゴンにある保健省の許可が必要である。また、ヤンゴン、マンダレー、イエナダ病院と、プロジェクトメンバーの活動場所は様々なところにあるうえ、ミャンマー国内の通信システムも不十分である。このようななかでプロジェクト活動を円滑にかつ効果的に進めるためにチーム内及びカウンターパートとの情報交換をより一層工夫していくことが望まれる。



## 付 属 資 料

- 1 .ミニッツ
- 2 .カウンターパート組織図
- 3 .ハンセン病対策活動・計画報告(カウンターパート)
- 4 .イエナダ・ハンセン病病院概要
- 5 .合同調整委員会 / プロジェクト活動報告(カウンターパート)
- 6 .合同調整委員会 / プロジェクト活動報告(専門家チーム)
- 7 .橋本 千代子 長期専門家(看護、2000.6.12 ~ 2001.11.30)報告



1. ミニッツ

MINUTES OF MEETINGS  
BETWEEN THE JAPANESE MANAGEMENT CONSULTATION TEAM  
AND THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF  
THE UNION OF MYANMAR  
ON JAPANESE TECHNICAL COOPERATION  
FOR THE LEPROSY CONTROL AND BASIC HEALTH SERVICES PROJECT

The Japanese Management Consultation Team (hereinafter referred to as "the Team"), organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Dr. Kiyoshi Tanaka visited the Union of Myanmar from November 18, 2001 to November 26, 2001, for the purpose of reviewing the activities of the Leprosy Control and Basic Health Services Project (hereinafter referred to as "the Project"), and discussing the future implementation plan of the Project.

During its stay, the Team exchanged views and had a series of discussions with Myanmar authorities concerned. As a result of the discussions, both sides agreed upon the matters described in the document attached hereto.

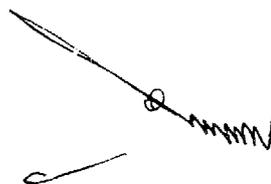
Yangon, November 26, 2001

田中喜代史

---

Dr. Kiyoshi Tanaka, M.D.  
Leader  
Management Consultation Team  
Japan International Cooperation Agency  
Japan

田中喜代史



---

Dr. Soe Aung  
For Director General  
Deputy Director General  
(Public Health and Disease Control)  
Department of Health  
Ministry of Health  
The Union of Myanmar

## 1. Reviewing the Achievements

Both sides recognized that the Project has been well established and started implementation of program as planned in the Record of Discussions (R/D), Project Design Matrix (PDM), and the Tentative Schedule of Implementation (TSI) from April 2000 to November 2001.

Progress of activities is generally smooth and major points of activities and input are summarized described as bellow.

### (1) Implementation on the Activities

#### 1) New Case Finding

- On the job clinical training for new case finding of Leprosy has been conducted for doctors working in Yenanthar Leprosy Hospital.
- The training materials for differential diagnosis by OHP sheet were made.
- Posters for raising awareness of MDT and early signs of Leprosy were made and utilized.
- The training for information system was carried out for vertical staff.

#### 2) Treatment

- On the job laboratory training has been conducted for a technician working in Yenanthar Leprosy Hospital.
- The laboratory training of Leprosy was carried out for vertical staff with distribution of training manuals made by the Project.  
The detail of the provided and planned training is shown in ANNEX 1-a.
- The materials for making training videotapes for skin smear test has been collected.

#### 3) Prevention and Rehabilitation

- On the job training of POD/POWD has been conducted for staff in Yenanthar Leprosy Hospital.
- The training of POD/POWD was carried out for Basic Health Staff with distribution of training materials made by the Project.  
The detail of the provided and planned training is shown in ANNEX 1-b.
- The materials for training videotapes has been collected in Yenanthar Leprosy Hospital.
- The pamphlets for self care was made for patients.

#### 4) Other diseases

- The integrated training for Tuberculosis, EPI, and Leprosy was carried out for Basic Health Staff.
- The laboratory training about Malaria and Tuberculosis was carried out for vertical staff.  
The detail of the provided and planned training is shown in ANNEX 1-c.
- The pamphlets, posters, guidebooks were prepared and distributed for the community, health staff, and general practitioners about Tuberculosis and EPI.
- The Tuberculosis laboratory guidebooks were prepared and distributed.

FB  
CP



5) Other necessary activities

- Central Level Joint Coordinating Committee Meeting on the Project was held.
- Joint meeting of three Divisions (Magway, Sagaing and Mandalay) on Leprosy and Basic Health Services were held in June 2000 and February–March 2001 for evaluating and planning Leprosy, Tuberculosis and EPI activities.

(2) Input

1) Dispatch of Japanese Experts

The detail of the dispatched experts and the planned experts is shown in ANNEX 2.

2) Provision of Equipment

The detail of the provided and planned equipment is shown in ANNEX 3-a, 3-b.

3) Training of the counterparts in Japan

The detail of the training in Japan is shown in ANNEX 4.

4) Facilities

The government of Japan constructed a training center of Yenanthar Leprosy Hospital and renovated a laboratory room and an operation theatre of Yenanthar Leprosy Hospital, and Special Skin Clinics in Yangon and Mandalay.

## 2. Activities in the future

Both sides agreed that the Project developed the action plan until the end of 2002 Japanese Fiscal Year (hereinafter referred to as "JFY"), which had been formulated in line with the Record of Discussions (R/D) and Project Design Matrix (PDM) after the review of the overall progress of the Project.

The major points of future activities and input are summarized described as bellow.

(1) Activities

1) New Case Finding

- On the job clinical training for new case finding of Leprosy will be conducted for doctors in Yenanthar Leprosy Hospital.
- The project will further support to strengthen Leprosy Elimination Program and Mass Media Campaign thorough following activities;
  - Raising community awareness (by making the poster, calendar, pamphlet, etc.)
  - Suitable monitoring for the case detection needs further discussion
- The training of differential diagnosis and silent neuritis will be conducted for team leaders.
- The training on pathological aspect of Leprosy will be conducted for medical officers working in Yenanthar Leprosy Hospital and Special Skin Clinics.
- The training of computer techniques and programming will be conducted for team leaders.

⑤  
中

## 2) Treatment

- On the job laboratory training will be continually conducted for technicians in Yenanthar Leprosy Hospital.
- The laboratory training of Leprosy will be carried out for laboratory technicians in Township Hospitals with distribution of training manuals made by the Project.
- The training videotapes for skin smear test will be made.

## 3) Prevention and Rehabilitation

- On the job training of POD/POWD will be continually conducted for staff in Yenanthar Leprosy Hospital and Special Skin Clinics.
- The training of POD/POWD and referral will be carried out for Basic Health Staff with distribution of training materials made by the Project.
- The training of reconstructive surgery will be carried out for orthopedic surgeon in Divisional & District Hospitals and in Yenanthar Leprosy Hospital & Mawlamyaing Hospital.
- The training of sewing technique for social rehabilitation will be carried out for leprosy (ex)patients and their family.
- The training videotapes will be made in Yenanthar Leprosy Hospital.

## 4) Other diseases

- The integrated training for Tuberculosis, EPI, and Leprosy will be carried out for Basic Health Staff.
- The laboratory training about Malaria and Tuberculosis will be carried out for technicians in Township Hospital.
- The pamphlets, posters, guidebooks will be prepared and distributed for the community, health staff, and general practitioners about Tuberculosis and EPI.
- The Tuberculosis and Malaria laboratory guidebooks will be prepared and distributed.

## 5) Program Management

- The training of computer techniques and programming will be conducted for team leaders.
- If necessary, other activities will be conducted based on the plan which both sides agree.

## 6) Other necessary activities

- Central Level Joint Coordinating Committee Meeting on the Project will be held.
- Joint meeting of three Divisions (Magway, Sagaing and Mandalay) on Leprosy and Basic Health Services will be held for evaluating, planning, and sharing information on Leprosy, Tuberculosis, and EPI activities.

## (2) Input

### 1) Dispatch of Japanese Experts

- Until the end of 2001JFY, seven short-term experts will be dispatched in the fields of Reconstructive Surgery, Nursing, Rehabilitation, Prosthesis and Shoe-making, and Leprosy Control.

④  
中



- In the 2002JFY, the long-term experts will be stationed continuously from previous year in the Project, their expertise will be in the field of Chief Advisor, Leprosy Control, Nursing, and Coordinator. The short-term experts will be dispatched occasionally in related fields based on the necessity of the Project's plan upon which both sides agree.

## 2) Provision of Equipment

- The equipment, which will be expected to contribute to the Project's target activities, will be provided within the limit of the budget of Japanese Government based on the Project's plan upon which both sides agree.

## 3) Training of the counterparts in Japan

- Until the end of 2001JFY, two counterparts will be sent to Japan as the trainee in the field of Leprosy Control.
- The counterparts of the Project's activities will be sent to Japan as the trainee in the each field of the Project's activities to contribute to the Project's purpose on the plan upon which both sides agreed.

## 3. Recommendation

The project recommends;

- to approve the proposed plan of action for the 2002JFY.
- to strengthen the institutes (Yenanthar Leprosy Hospital and Special Skin Clinics) to be able to conduct training of different categories of staff in line with their job responsibilities and rehabilitation (Physical rehabilitation, reconstructive surgery, and vocational training)
- to develop better media for increasing community awareness so that it should be beneficial for the whole country.
- to shift the present Japanese project office to Regional Leprosy Office in Mandalay.
- to maintain and upkeep of the cooperation of the Japanese side and Myanmar side for the success of the project.

## ANNEX

The following documents show the Implementation of the Project.

ANNEX 1-a: Implementation of Training Courses - Treatment -

ANNEX 1-b: Implementation of Training Courses - Prevention and Rehabilitation -

ANNEX 1-c: Implementation of Training Courses - Other Diseases -

ANNEX 2 : Implementation of Dispatched Expert in the 2000JFY and 2001JFY

ANNEX 3-a: Implementation of Provision of Equipment in the 2000JFY

ANNEX 3-b: Implementation of Provision of Equipment in the 2001JFY

ANNEX 4 : Implementation of C/P Training in Japan in the 2000JFY and 2001JFY

5  
中



44

### ANNEX 1-a: Implementation of Training Course for Treatment in 2001JFY

Training	Trainer	Participates	Duration	No of participants	Contents	Location	Material supported by JICA
Leprosy	<ul style="list-style-type: none"><li>• Medical officers and laboratory technician from CSSC and Yenanthar leprosy Hospital</li><li>• JICA expert</li></ul>	Laboratory Technician of Vertical Staffs (National)	30/07/01 ~ 11/08/01 03/09/01 ~ 15/08/01 17/09/01 ~ 29/09/01	9 12 6	TOT: Microscopy	Yenanthar Leprosy Training Center	Guidebook



ANNEX 1-b: Implementation of Training Courses for prevention and rehabilitation in 2001JFY

Training	Trainer	Participates	Duration	No of participants	Contents	Location	Materials supported by JICA
Training Methodology	MOH	Leprosy, TB and EPI Vertical Staffs	14/05/01~16/05/01	11	TOT	CSSC in Yangon	
Leprosy	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Medical officers from CSSC, YGH</li> <li>• JICA Project Consultant</li> <li>• RLO</li> <li>• WHO Consultant in Leprosy</li> <li>• JICA expert</li> </ul>	Leprosy Vertical Staffs (RLO, TL and LI)	09/07/01~11/07/01	13	TOT: Schedule, and Methodology of BHS training	CSSC in Yangon	
Leprosy	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Leprosy (RLO, TL and LI)</li> <li>• JICA expert</li> </ul>	BHS of 48 Township	08/07/01~8/10/01	3091	Self Care	48 Township Hospital	Guidebook Pamphlet
Sewing	<ul style="list-style-type: none"> <li>• HITO Center (NGO)</li> <li>• Yenanthar Leprosy Hospital staff</li> </ul>	Ex-patient in Nantha Myaing villager and family	03/12/01~14/12/01	23	Sewing method	Yenanthar Leprosy Training Center	
Reconstructive Surgery	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Medical officers from CSSC, YGH</li> <li>• JICA Project Consultant</li> <li>• JICA experts</li> </ul>	Orthopedist (Divisional Level)	01/14/02~08/02/02	7		Yenanthar Leprosy Training Center	

ANNEX 1-c: Implementation of Training Courses for other diseases in 2001JFY

Training	Trainer	Participates	Duration	No of participants	Contents	Location	Materials supported by JICA
TB	TB vertical Staffs	TB Vertical Staffs	06/07/01~07/07/01	13	TOT for training	TB Office in Yangon	
TB EPI	TB and EPI vertical Staff	BHS of 48 Township	18/07/01~10/08/01	3091	DOTS Refresh course	48 Township Hospital	Guidebook Pamphlet Poster
TB	• JICA expert • Vertical staff	Laboratory Technician (Township and Zoon Level)	09/08/01~16/08/01	9	TOT: Microscopy	Yenanthar Leprosy Training Center	Guidebook
Malaria	• JICA expert • Vertical staff	Laboratory Technician of Vertical Staffs (Malaria)	15/08/01~28/08/01	5	TOT: Microscopy	Yenanthar Leprosy Training Center	

5/11

ANNEX 2: Implementation of Dispatched Experts in the 2000JFY and 2001JFY

Category	Experties Name of the experts	Duration	Schedule ( Japanese Fiscal Year )																							
			2000				2001				2002				2003				2004							
			I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV				
Long Term Expert	Chief Advisor																									
	Dr. Kazuo Hikita	08/05/00 - 07/05/02	-----																							
	Coordinator																									
	Ms. Yoshiko Taniguchi	08/05/00 - 07/05/02	-----																							
	Leprosy Control																									
	Dr. Kentaro Hatano	08/05/00 - 07/05/01	-----																							
	Dr. Eiji Nagao	27/05/01 - 26/05/02									-----															
	Nurse/Epidemiologist																									
Ms. Chiyoko Hashimoto	12/06/00 - 30/11/01	-----																								
Ms. Hiroko Beba	01/11/01 - 30/04/03																			-----						
Short Term Expert	Experts of Leprosy Control																									
	Dr. Osamu Mikami	26/02/01 - 07/03/01																								
	Dr. Reiko Nogami	19/02/02 - 05/03/02																								
	Dr. Yutaka Ishida	22/01/22 - 19/02/02																								
	Laboratory Technicians																									
	Mr. Keiji Suzuki	05/02/01 - 04/03/01																								
	Mr. Kazunori Tamamura	15/07/01 - 14/10/01																								
	Nurse																									
	Ms. Hisako Ebina	05/02/01 - 04/03/01																								
	Ms. Mutsuyo Ichihara	26/02/01 - 26/03/01																								
	Ms. Chieko Morozumi	15/01/02 - 12/02/02																								
Rehabilitation ( Physiotherapist, Occupational Therapist )																										
Mr. Shoichi Miyaguchi	05/02/01 - 04/03/01																									
Mr. Itsuo Noguchi	08/01/02 - 12/02/02																									

→ (E)

Short Term Expert	Experts on Prosthesis and Shoe making																					
	Mr. Yoshiharu Hashiguchi	05/02/01 - 04/03/01			---																	
	Mr. Takeshi Yamaguchi	15/01/02 - 12/02/02							=													
	Reconstructive Surgery																					
	Dr. Kentaro Hatano	15/01/02 - 12/02/02							=													
	Experts on Tuberculosis																					
	Dr. Katsunori Osuga	26/02/01 - 03/03/01			.																	
	Ms. Akiko Fujiki	05/08/01 - 19/08/01			.	*																
	Experts on IEC																					
	*									==												
	Maleriologist																					
Dr. Shigeyuki Kano	11/08/01 - 29/08/01				.																	

Implementation: =====

Tentative Plan: =====

Details are not determined: \*

✓

**ANNEX 3-a: Implementation of Provision of Equipment (Provision on 2000FY)**

No.	Items	Quantity	Location	Purpose
<b>A) Equipment for Project Office</b>				
1	Color Printer	3 Sets	Project Office	For Project Office Management
2	Computer	3 Sets	Project Office	
3	Computer (Note Book, Toshiba Satellite 2230 CDS)	1 PCS	Project Office	
4	Copier NP-7160 Canon	1 PCS	Project Office	
5	Copier NP-7210 Canon	2 PCS	Project Office	
6	Generator	2 Sets	Project Office	
7	Multimedia Projector 3M	2 Sets	Project Office	
8	O/H Projector Euro 5000 Portable		Project Office	
9	Scanner	1 PCE	Project Office	
10	Toyota Hiace 4-Door Std Commuter Bus	1 Unit	Project Office	
11	Toyota Land Cruiser Station Wagon, 4200 cc	3 Unit	Project Office	
<b>B) Equipment for Vertical Staff Training</b>				
11	Mini Component Cassette with microphone set	28 PCS	T/S Hospital	For supporting Vertical Staff activities
12	O/H Projector (2000 Lumens) Euro 2000	27 PCS	T/S Hospital	
13	Television (21")	29 PCS	T/S Hospital	
14	Tripod & Screen	27 Sets	T/S Hospital	
15	Vedio Cassette Player (HIFI)	29 PCS	T/S Hospital	
16	Color Printer Epson Stylus 670	14 Sets	Team Leader's office	
17	Computer IBM Compatible	13 PCS	Team Leader's office	For development the function of Township Hospitals
18	UPS 600 VA	17 Nos.	Team Leader's office	
19	Alchol Lamp	25 PCS	Township Hospital (Training)	
20	Diamond Pen With Cap	25 PCS	Township Hospital (Training)	
21	Microscope	25 PCS	Township Hospital (Training)	
22	Scalder	25 PCS	Township Hospital (Training)	
23	Scaple Holder & Sterile Scaple Blades	25 PCS	Township Hospital (Training)	
24	Slide Glass	25 Boxes	Township Hospital (Training)	
25	Whiteboard	25 PCS	Township Hospital (Training)	
<b>C) Equipment for Yenanthar Leprosy Hospital</b>				
26	Bone Curette	10 PCS	Yenanthar H. (Operating Theater)	For development the function of Operating Theater in Yenanthar Leprosy Hospital
27	Bone Rongeur	10 PCS	Yenanthar H. (Operating Theater)	
28	Dissecting Forceps	50 PCS	Yenanthar H. (Operating Theater)	
29	Hemostatic Forceps	66 PCS	Yenanthar H. (Operating Theater)	
30	Needle Holder	10 PCS	Yenanthar H. (Operating Theater)	
31	Retractor	10 PCS	Yenanthar H. (Operating Theater)	
32	Rubber Belt	10 PCS	Yenanthar H. (Operating Theater)	
33	Scalpel Holder & Sterile Scalpel Blades	10 PCS	Yenanthar H. (Operating Theater)	
34	Sterilizing Case	10 PCS	Yenanthar H. (Operating Theater)	
35	Suture Needle	100 PCS	Yenanthar H. (Operating Theater)	
36	Air Condition RAS-18 CP2 (2 HP) Split Type	8 PCS	Yenanthar Hospital (Laboratory)	For development the function of Laboratory in Yenanthar Leprosy Hospital
37	Alchol Lamp	5 PCS	Yenanthar Hospital (Laboratory)	
38	Balance	1 PCE	Yenanthar Hospital (Laboratory)	
39	Beaker	30 PCS	Yenanthar Hospital (Laboratory)	
40	Blood Sedimentator	2 pcs	Yenanthar Hospital (Laboratory)	
41	Brush for Washer	15 PCS	Yenanthar Hospital (Laboratory)	
42	Cabinet For Chemicals & Appliances	1 PCE	Yenanthar Hospital (Laboratory)	
43	Centrifuge,	2 sets	Yenanthar Hospital (Laboratory)	
44	Dish, Maker : T GK	5 PCS	Yenanthar Hospital (Laboratory)	
45	Erlenmeyer Flask	25 PCS	Yenanthar Hospital (Laboratory)	
46	ESR Pipette	2 PCS	Yenanthar Hospital (Laboratory)	For development the function of Laboratory in Yenanthar Leprosy Hospital
47	Funnel	15 PCS	Yenanthar Hospital (Laboratory)	
48	Hand Tally Counter	5 PCS	Yenanthar Hospital (Laboratory)	

49	Hemacytometer	5 pcs	Yenanther Hospital (Laboratory)	For development the function of Laboratory in Yenanthar Leprosy Hospital	
50	Hemoglobin Meter	3 PCS	Yenanther Hospital (Laboratory)		
51	Holder, Sude Glass	1 Box	Yenanther Hospital (Laboratory)		
52	Hole Slide Glass	5 PCS	Yenanther Hospital (Laboratory)		
53	Luckocytometer	1 PCE	Yenanther Hospital (Laboratory)		
54	Measuring Cylinder	20 PCS	Yenanther Hospital (Laboratory)		
55	Micro Pipette	2 PCS	Yenanther Hospital (Laboratory)		
56	Microscope,	3 sets	Yenanther Hospital (Laboratory)		
57	Pipette Holder	5 PCS	Yenanther Hospital (Laboratory)		
58	Pipette Komagome,	6 Boxes	Yenanther Hospital (Laboratory)		
59	Reagent Bottle,	20 PCS	Yenanther Hospital (Laboratory)		
60	Refractometer	1 PCE	Yenanther Hospital (Laboratory)		
61	Specimen Box	54 PCS	Yenanther Hospital (Laboratory)		
62	Spoid	4 Boxes	Yenanther Hospital (Laboratory)		
63	Spoid	2 Boxes	Yenanther Hospital (Laboratory)		
64	Test Tube	2 PCE	Yenanther Hospital (Laboratory)		
65	Tube Stan,	5 PCS	Yenanther Hospital (Laboratory)		
66	Tweezers Standard Type	20 PCS	Yenanther Hospital (Laboratory)		
67	Vessel For Dye	20 PCS	Yenanther Hospital (Laboratory)		
68	Volume Flask	7 Box	Yenanther Hospital (Laboratory)		
69	Volumetric Pepette	7 Boxes	Yenanther Hospital (Laboratory)		
70	Wash Bottle	5 PCS	Yenanther Hospital (Laboratory)		
71	Bedding Material	6 PCE	Yenanther Hospital (Prosthesis)		For development the function of Prosthesis section in Yenanthar Leprosy Hospital
72	Cork	1 PCE	Yenanther Hospital (Prosthesis)		
73	Foot Imprint System (60400000) Berke	1 Set	Yenanther Hospital (Prosthesis)		
74	Generator Model TLG-13SPY " Denyo "	1 Set	Yenanther Hospital (Prosthesis)		
75	Imprint Form	6 Sets	Yenanther Hospital (Prosthesis)		
76	Leg Length Gauge (00102) Asrslev	1 Set	Yenanther Hospital (Prosthesis)		
77	Lining Material	10 PCS	Yenanther Hospital (Prosthesis)		
78	Pelvis Spirit	1 Set	Yenanther Hospital (Prosthesis)		
79	Shoe Sizing Measuring Scale	2 Sets	Yenanther Hospital (Prosthesis)		
80	Sprinther Oven "Minke"	1 Set	Yenanther Hospital (Prosthesis)		
81	Thermoformin Machine	1 Set	Yenanther Hospital (Prosthesis)		
82	Thermoplastic Plate (321015)	5 PCS	Yenanther Hospital (Prosthesis)		
83	Button Aid,	50 PCS	Yenanther Hospital (Rehabilitation)		For development the function of Rehabilitation section in Yenanthar Leprosy Hospital
84	Exercise Putty,	1 PCE	Yenanther Hospital (Rehabilitation)		
85	Goniometer,	1 PCE	Yenanther Hospital (Rehabilitation)		
86	Grip Dynamometer	1 PCE	Yenanther Hospital (Rehabilitation)		
87	Parallel Bar,	1 PCE	Yenanther Hospital (Rehabilitation)		
88	Pinch Exerciser With Glass Ball	1 PCE	Yenanther Hospital (Rehabilitation)		
89	Posture Correction Mirror	1 PCE	Yenanther Hospital (Rehabilitation)		
90	Quito, With A Pound Loop (Color)	1 PCE	Yenanther Hospital (Rehabilitation)		
91	Spoon Holder, L10 x W 25 mm	20 PCS	Yenanther Hospital (Rehabilitation)		
92	Tool Cabinet,	1 PCE	Yenanther Hospital (Rehabilitation)		
93	Walker With Caster	1 PCE	Yenanther Hospital (Rehabilitation)		
94	Weight Band	1 PCE	Yenanther Hospital (Rehabilitation)		
95	Wheel Chair, Standard Type	2 PGS	Yenanther Hospital (Rehabilitation)		
96	Work Table	1 PCE	Yenanther Hospital (Rehabilitation)		
97	Zigsaw Puzzle Set	4 sets	Yenanther Hospital (Rehabilitation)		
98	Forcepa	210 PCS	Yenanther Hospital (Ward)		For development the function of Wards in Yenanthar Leprosy Hospital
99	Forceps Stand	5 PCS	Yenanther Hospital (Ward)		
100	Jar	15 PCS	Yenanther Hospital (Ward)		
101	Kidney Dish	25 PCS	Yenanther Hospital (Ward)		
102	Probe	50 PCS	Yenanther Hospital (Ward)		
103	Scalpel Holder &	50 PCS	Yenanther Hospital (Ward)		
104	Scissors	50 PCS	Yenanther Hospital (Ward)		
105	Sphygmomanometer	3 PCS	Yenanther Hospital (Ward)		
106	Sponge Forces	10 PCS	Yenanther Hospital (Ward)		
107	Spoon	100 PCS	Yenanther Hospital (Ward)		
108	Sterilizing Case	5 PCS	Yenanther Hospital (Ward)		
109	Trolley For Bound	5 PCS	Yenanther Hospital (Ward)		

15/11/17

110	Whete Type Forceps	10 PCS	Yenanthar Hospital (Ward)	For development the function of Wards in Yenanthar Leprosy Hospital
111	Air Condition RAS-13 C2M (1.5 HP) Split Type	4 PCS	Yenanthar Training Center	
<b>D) Equipment for Community Midwives</b>				
112	Care Set:Plobe, Forceps, Dissecting Scissors, Scalpel Handles, Nail Cutter and Stainless Borad	50 Sets	(Health Center)	For supporting Midwives activities
113	Sphygomanometer + Stetoscope	400 Set	(Health Center)	
<b>E) Equipment for CSSC in Yangon</b>				
114	Television (29")	1 PCS	CSSC YGN	For development the function of SSC in Yangon
115	Typewriter for English Language	1 PCS	CSSC YGN	
116	Typewriter for Myanmar Language	1 PCS	CSSC YGN	

142/15

ANNEX 3-b: Implementation of Provision of Equipment (Provision on 2001JFY)

No.	Items	Quantity	Location	Purpose
<b>A) Equipment for Vertical Staff Training</b>				
1	Computer	5	Team Leader's office	For supporting Vertical Staff activities
2	Printer	5	Team Leader's office	
3	Stabilizer	5	Team Leader's office	
4	UPS	5	Team Leader's office	
5	21-Inch Color Television	23	Township Hospital (Training)	For development the function of Township Hospitals
6	Diamond Pen	23	Township Hospital (Training)	
7	Microphone Set	23	Township Hospital (Training)	
8	Microscope	23	Township Hospital (Training)	
9	OHP	23	Township Hospital (Training)	
10	Printing Machine	25	Township Hospital (Training)	
11	Scalpel Handles	23	Township Hospital (Training)	
12	Scalpel Handle Blades	23	Township Hospital (Training)	
13	Screen	23	Township Hospital (Training)	
14	Slide Glass	23	Township Hospital (Training)	
15	Split Cotton Case	23	Township Hospital (Training)	
16	Spirit Lamp	23	Township Hospital (Training)	
17	Typewriter	25	Township Hospital (Training)	
18	Typewriter	25	Township Hospital (Training)	
19	Video	23	Township Hospital (Training)	
20	White Board	26	Township Hospital (Training)	
21	Copy Machine	3	Regional Leprosy Office	
<b>B) Equipment for Yenanthar Leprosy Hospital</b>				
22	Air Conditionor	2	Yenanthar H. (Operating Theater)	For development the function of Operating Theater in Yenanthar Leprosy Hospital
23	Air tourniquet	1	Yenanthar H. (Operating Theater)	
24	Automatic Autoclave	1	Yenanthar H. (Operating Theater)	
25	Bone Holding Forceps	2	Yenanthar H. (Operating Theater)	
26	Bone Nibbler	16	Yenanthar H. (Operating Theater)	
27	Chesel	5	Yenanthar H. (Operating Theater)	
28	Curette	23	Yenanthar H. (Operating Theater)	
29	Delicate Scissors	11	Yenanthar H. (Operating Theater)	
30	Delicate Tissue Forceps	22	Yenanthar H. (Operating Theater)	
31	Dissecting Forceps	107	Yenanthar H. (Operating Theater)	
32	Dissecting Scissors	46	Yenanthar H. (Operating Theater)	
33	Drill & Burs	1	Yenanthar H. (Operating Theater)	
34	Esmarch	25	Yenanthar H. (Operating Theater)	
35	Foot drop positioning splint	10	Yenanthar H. (Operating Theater)	
36	Giggli saw & Handle	1	Yenanthar H. (Operating Theater)	
37	Haemostatic Forceps	384	Yenanthar H. (Operating Theater)	
38	Handle for Giggli Saw	2	Yenanthar H. (Operating Theater)	
39	Kirshner's Wire	70	Yenanthar H. (Operating Theater)	
40	Kuutscher	15	Yenanthar H. (Operating Theater)	
41	Needle Holder	38	Yenanthar H. (Operating Theater)	
42	Nylon Hummer	1	Yenanthar H. (Operating Theater)	
43	operational light	2	Yenanthar H. (Operating Theater)	
44	operational table	1	Yenanthar H. (Operating Theater)	
45	Plaster saw	10	Yenanthar H. (Operating Theater)	
46	Plaster splender	1	Yenanthar H. (Operating Theater)	
47	Plier	1	Yenanthar H. (Operating Theater)	
48	Raspatories	1	Yenanthar H. (Operating Theater)	
49	Retractor	99	Yenanthar H. (Operating Theater)	
50	Round cast	60	Yenanthar H. (Operating Theater)	
51	Rubber Welts	5	Yenanthar H. (Operating Theater)	
52	Scalpel Handle	70	Yenanthar H. (Operating Theater)	
53	Scissor for splint bandage	1	Yenanthar H. (Operating Theater)	
54	Sterile Scalpel Blades	72	Yenanthar H. (Operating Theater)	
55	Surgical Scissors	36	Yenanthar H. (Operating Theater)	

56	Suture Needle	410	Yenanthar H. (Operating Theater)	For development the function of Operating Theater in Yenanthar Leprosy Hospital
57	Tendon forceps	21	Yenanthar H. (Operating Theater)	
58	Tendon Tunneller	24	Yenanthar H. (Operating Theater)	
59	Tendow Seizing Forceps	6	Yenanthar H. (Operating Theater)	
60	Towel Clamp	168	Yenanthar H. (Operating Theater)	
61	Trolley for Instruments	1	Yenanthar H. (Operating Theater)	
62	Trolley for Patient	1	Yenanthar H. (Operating Theater)	For development the function of Laboratory in Yenanthar Leprosy Hospital
63	Microscope	3	Yenanthar Hospital (Laboratory)	
64	Air-Grinder	1	Yenanthar Hospital (Prosthesis)	For development the function of Prosthesis section in Yenanthar Leprosy Hospital
65	Cork	20	Yenanthar Hospital (Prosthesis)	
66	Counter Material	5	Yenanthar Hospital (Prosthesis)	
67	Cushioning Materials	5	Yenanthar Hospital (Prosthesis)	
68	Foot Model	1	Yenanthar Hospital (Prosthesis)	
69	Mini-Rasp Set	4	Yenanthar Hospital (Prosthesis)	
70	Orthopedic Shoe Press Machine	1	Yenanthar Hospital (Prosthesis)	
71	Rubber Welts	5	Yenanthar Hospital (Prosthesis)	
72	Shoe Repair Press Machine	1	Yenanthar Hospital (Prosthesis)	
73	Sole Sheets	50	Yenanthar Hospital (Prosthesis)	
74	THERMIT RX (Thermoplastic)	5	Yenanthar Hospital (Prosthesis)	
75	Tool Set Meister	2	Yenanthar Hospital (Prosthesis)	For development the function of Rehabilitation section in Yenanthar Leprosy Hospital
76	Weaving Machine, Table Type	3	Yenanthar Hospital (Rehabilitation)	
77	Weaving Thread Set	3	Yenanthar Hospital (Rehabilitation)	
<b>G) Equipment for Community Midwives</b>				
78	Care Set: Plobe, Forceps, Dissecting Scissors, Scalpel Handles, Nail Cutter and Stainless Borad	100	(Health Center)	For supporting Midwives activities
79	Mirror	1800	(Health Center)	
80	Motor Cycle	5	(Health Center)	
81	Sphygomanometer + Stetoscope	600	(Health Center)	
<b>E) Equipment for SSC in Yangon and Mandalay</b>				
82	Computer	1	SSC MDY	For development the function of SSC in Mandalay
83	Microphone Set	1	SSC MDY	
84	OHP	1	SSC MDY	
85	Printer	1	SSC MDY	
86	Screen	1	SSC MDY	
87	Stabilizer	1	SSC MDY	
88	TV	1	SSC MDY	
89	Typewriter(Myanmar)	1	SSC MDY	
90	Typewriter(English)	1	SSC MDY	
91	UPS	1	SSC MDY	
92	Video	1	SSC MDY	
93	Book Shelf	1	CSSC YGN	For development the function of CSSC in Yangon

၁၅  
၁၂

子田

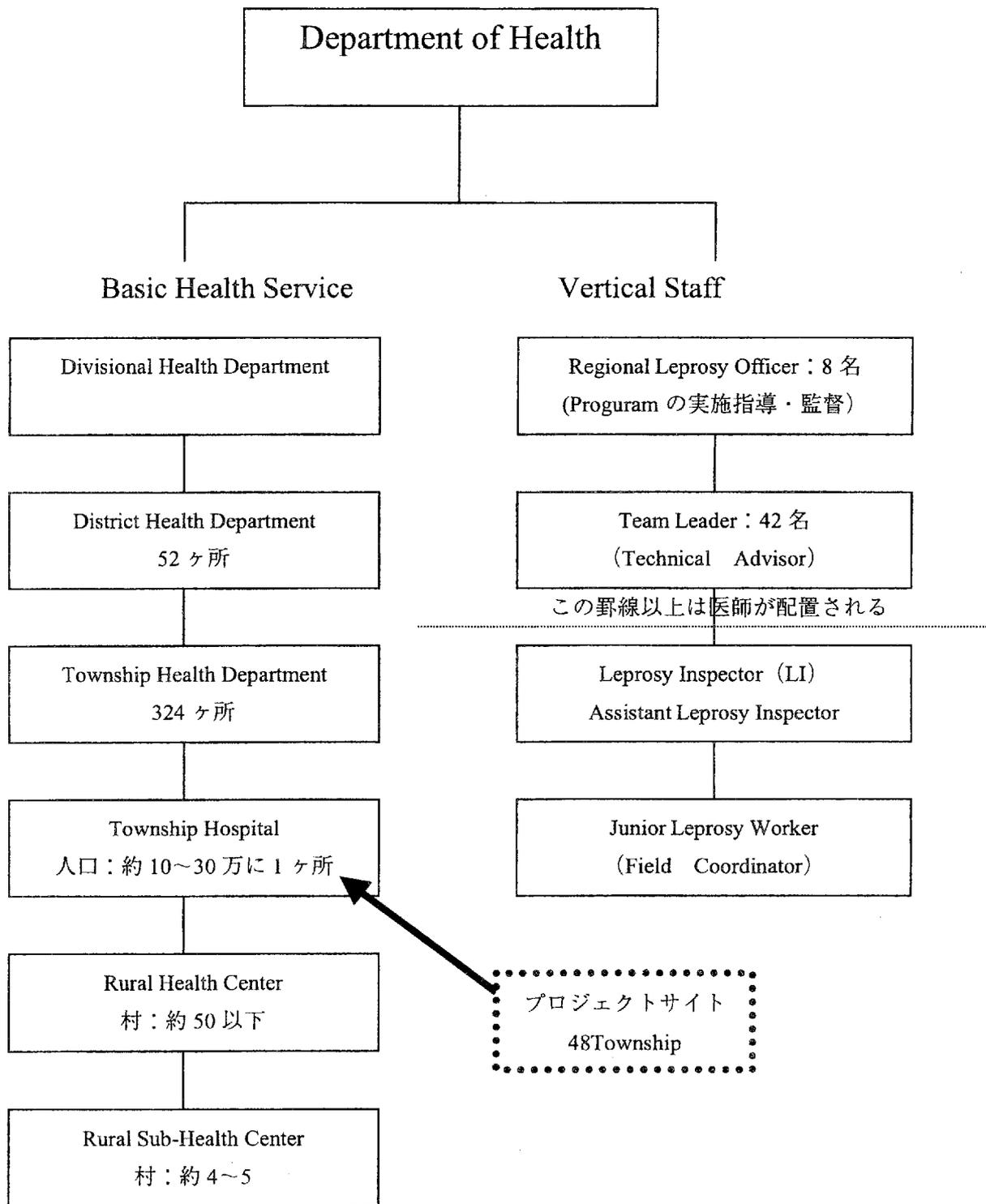
ANNEX 4: Implementation of G/P Training in Japan in the 2000JFY and 2001JFY

Training course Name of Participant	Duration	Schedule ( Japanese Fiscal Year )																			
		2000				2001				2002				2003				2004			
		I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
1) <u>Leprosy Control</u>																					
Dr. Kyaw Nyunt Sein	06/11/00 - 25/11/00			-																	
Dr. Kyaw Kyaw	17/10/00 - 12/12/00			---																	
Dr. Myat Thida	17/10/00 - 15/04/01			-----																	
Dr. Tin Hlaing	15/01/02 - 19/02/02									=											
*										==											
2) <u>Disease Control ( Tuberculosis )</u>																					
Dr. Than Swe	11/09/01 - 30/10/01							-													
3) <u>Disease Control ( EPI )</u>																					
Dr. Aye Nyein	25/08/01 - 18/08/01					-															

Implementation: ———  
 Tentative Plan: = = = =  
 Details are not determined: \*

2. カウンターパート組織図

Organization of the Health Service in Leprosy Control Programme



プロジェクトサイト (マンダレー・サガイン・マダウェイ) の人口：840 万人